

みなとのニュース

後志管内地域磯焼け対策意見交換会を開催しました

小樽開発建設部 小樽港湾事務所 第2工務課

令和5年10月31日(火)、管内地域磯焼け対策意見交換会を開催しました。近年はコロナ禍のため書面開催やweb形式でしたが、4年振りに対面形式で開催しました。後志総合振興局管内の古平町、積丹町、寿都町、東しゃこたん漁協、寿都町漁協、寒地土木研究所水産土木チーム、小樽開発建設部及び北海道大学山下名誉教授の全25名の参加となりました。

小樽開発建設部からは、小樽港湾事務所第2工務課の佐藤事業専門官により「これまで・これからの磯焼け対策」と題し、磯焼けの変遷や磯焼けの原因、これまでの藻場造成・磯焼け対策事例、今後の磯焼け対策としては北海道の港湾・漁港の技術開発ビジョンを踏まえた検討やブルーカーボンへの取組の重要性等を報告しました。

寒地土木研究所からは、水産土木チームの本山主任研究員により「効率的な藻場分布調査に関する研究」と題し、水産土木チームの研究内容のご紹介、空中および水中ドローンを活用した高精度で効率的な藻場分布調査手法や調査の具体的な事例、また、画像解析による海藻現存量の推定手法を報告いただきました。

各地域における取組みとして、古平町からは、産業課の山本水産係主任により「古平の藻場保全活動」と題し、ウニの食圧を抑制するためのウニの密度管理

事業の活動状況や、ビバリーユニット(鉄鋼スラグと腐植土)による海域への海藻類に必要な栄養分を供給する取組事例と効果を報告いただきました。

続いて、積丹町からは、農林水産課の水鳥指導員により「地元積丹町のウニ漁業と藻場造成」に関するプロモーション動画を紹介した後、磯焼けに悩む積丹町において、ウニ漁業の状況や、海藻の食害となるウニ除去、コンブ母藻ロープの設置、施肥による海域への栄養塩供給等の活動状況や、廃棄物であるウニ殻再利用によるコンブの増産、ウニ殻による施肥の開発など、循環型再生産への取組を報告いただき、最後に、寿都町からは、産業振興課の櫻井水産係長により「寿都町における磯焼け対策事業」と題し、近年の磯焼け対策としての施肥事業の取り組み、空撮による施肥効果が報告されました。また、近年の磯焼けの要因分析としてウニの食圧、海藻の種の不足、栄養塩の不足を上げ、今後の対策として、既存の藻場保全、継続した施肥活動、食圧生物(ウニ、小型巻貝)の密度管理、母藻育成等が重要である事を報告いただきました。

その後、意見交換を行い、各参加者からは各種取り組み内容の確認や、今後の現地調査の進め方に対する意見が出され、今後の磯焼け対策を進める上で大変有意義な会議となりました。



意見交換の状況



発表の状況